

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 都立小金井工科高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）

(2) 事務局の構成

主幹教諭(教務担当)＝事務局長、学年代表4名 計5名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、

主幹教諭(教務担当)、生活指導主任、進路指導主任 計6名

(4) 協議委員の構成

同窓会長、大学教授、小金井市教育委員会指導主事、近隣中学校長、小金井市商工会理事、
近隣自治会会長、小金井警察署員、保護者代表 計8名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和6年6月20日（木）内部委員6名、協議委員5名

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出

学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題

本校の現状と課題等説明、意見交換

第2回 令和6年11月11日（月）内部委員6名、協議委員7名

授業公開、これまでの教育活動に関する報告

協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議

第3回 令和7年2月18日（火）内部委員6名、協議委員8名

学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議

次年度に向けた方向性の確認

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和6年6月20日（木）内部委員4名、協議委員3名

学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察

今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和6年11月11日（月）内部委員4名、協議委員3名

今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討

第3回 令和7年2月18日（火）内部委員4名、協議委員3名

アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 評価の観点

「学校への理解」

「学校の意欲」

「学校の実践」

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

令和6年12月23日～令和7年1月20日

対象	対象数(人・件)	回収(人・件)	R 6 回収率(%)	(参考) R 5 回収率(%)
教 職 員	24	24	100	100
生 徒	52	51 (※1)	98.0	91.1
保 護 者	48 (※2)	28	58.3	57.1
地 域	73 (※3)	30	41.1	69.2
令和5年度卒業生	12	6	50.0	31.3

※1 数値は生徒対象に実施した複数のアンケートのうち、最も回答数の多かったもの

※2 同一世帯、成人生徒を除いたことによる生徒対象数との相違

※3 令和6年度、前原三丁目の方々を対象に60件依頼したことによる増

(3) 主な評価項目

学習指導、進路指導、生活指導（体罰、いじめ）、健康・安全、
部活動・特別活動（学校行事）、施設・設備、学校運営（ライフ・ワーク・バランス）

(4) 評価結果の概要（詳細別紙参照）

すべての項目について、教職員、生徒、保護者の半数以上から肯定的な回答を得た。

学校経営計画の令和6年度における取組目標の実現状況は以下のとおり。

ア 学習指導の充実

項	取組目標	実現状況	結果
①	「授業内容が分かる」と実感する生徒の割合が80%以上となる授業の割合が75%以上	84.1%	○
	「学んだ知識を活用できるようになった」と実感する生徒の割合が80%以上となる授業の割合が75%以上	55.6%	×
②	「学習したい、調べたい」と思う題材が提供されていると実感する生徒の割合が80%以上となる授業の割合が75%以上	60.3%	×
	資格取得に向けた講習会を実施した教員の割合が75%以上	20.0%(4名)	×
	新たな国家資格に準ずる資格取得にチャレンジした生徒数20名以上	3名	×
項	取組目標	実現状況	結果
③	評価を次の学び（授業）に繋がるように活用した指導が行われていると感じている生徒の割合が75%以上となる授業の割合が75%以上	92.1%	○
	教員相互の授業参観による授業研究を1回以上実施した教員の割合が75%以上	25.0%	×
	観点別学習状況の評価の在り方や評価と指導の一体化に関する研修会の実施回数3回以上	3回	○

イ 進路指導の充実

項目	取組目標	実現状況	結果
①	HR活動において、適性検査やキャリアパスポートが有効に活用され自己理解を深めることができた実感する生徒の割合が75%	74.5%	△
②	現代社会の課題について協議して、将来自分自身がやるべきことが何かを深く考えることができた実感する生徒の割合が75%	3月末に調査	—
③	進路決定に向けた指導や情報提供がされたと感じている生徒の割合75%	86.3%	○
	進路決定率100%	77.8%	△
	職場体験参加者15人以上（令和6年度は、職場体験に代わり、3年生対象の企業見学会を実施）	14名	△
	就職及び進学に関する説明会の回数5回以上	14回	○

ウ 生活指導・保健活動・特別活動等の充実

項目	取組目標	実現状況	結果
①	ホームルーム活動や学校行事で活躍できたと実感する生徒の割合75%以上	66.7%	×
	ホームルーム活動や学校行事で主体的に取り組むことができた実感する生徒の割合75%以上	78.4%	○
②	時間の管理ができるようになった実感する生徒の割合75%	64.7%	×
	体調管理（衛生管理、食事等）に関して意識するようになった実感する生徒の割合75%	66.7%	×
	交通安全に関して意識するようになった実感する生徒の割合90%	86.3%	△
	交通安全・防災に関する授業・講習会の実施回数5回以上	5回	○
③	学校が安心できる居場所であると実感する生徒の割合75%以上	74.5%	△
	相談しやすい環境であると実感している生徒の割合75%以上	74.5%	△

エ 開かれた学校づくり・健全な学校運営

項目	取組目標	実現状況	結果
①	受検者数20名以上	10名(R7一次)	×
	地域への学校評価アンケート依頼数を前年度比1.5倍以上	5.8倍(13→73)	○
②	服務事故0件	1件	×
③	定時外在校時間80時間以上の教職員数0人	1人	×
	効果的・効率的な予算執行（一般需用費のセンター契約集約率）60%以上	集計中	—

(5) 評価結果の分析・考察

ア 学習指導に関すること

- ・短縮時程を最低限に抑えたり、適宜時間割調整したりすることによる授業時数の確保、欠席により取り組めなかった課題（主に実習）の補習の実施、プリントやICT活用の工夫等により、「授業内容が分かる」と実感する生徒が多くなったと考えられる。
- ・「学んだ知識を活用できるようになった」と生徒が実感する授業の割合は、目標値に達しなかった。現行の学習指導要領において「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」が育成すべき資質・能力の柱の一つとして示されていることから、教科・科目の指導においてはより一層意識して取り組む必要があると考えられる。
- ・「もっと学びたい」「調べてみたい」と生徒が思う授業の割合も、目標値に達しなかった。一人1台端末の有効活用、授業のユニバーサルデザイン化のみならず、生徒の興味・関心を高めるためのさまざまな工夫が期待される。
- ・資格取得については、講習会の実施及びチャレンジする生徒数の目標値に対し、大きく乖離した結果だった。都では「工科高校資格取得アシスト制度」を令和6年度から始め、校内では当初より生徒への周知に努めてきたが、活用した生徒はいなかった。一方で、第一種電気工事士にチャレンジする生徒もいたことから、生徒一人一人の資格に対する意識の差を踏まえた小金井工科高校における資格取得指導の在り方を考えることが大切だと考えられる。
- ・「指導と評価の一体化」について校内研修を3回実施したこともあり、教職員の95.8%がその推進に取り組んでいると感じている。さらに、多くの授業について「授業担当者が授業中にアドバイスをしてくれている」と生徒が感じており、また、「成績評価が生徒の学習の改善につながっている」と感じている生徒・保護者も多いことから、多くの教員が「指導と評価の一体化」を意識した学習指導していることがうかがえる。令和7年度からは全学年において観点別学習状況の評価を実施していくことになる。① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと、② 教師の指導改善につながるものにしていくこと、③ これまで慣行として行われてきたことでも必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと、という学習評価の改善の方向性を踏まえ、校内外の研修や相互の授業参観等も活用した授業改善（指導と評価の一体化）の一層の推進が期待される。

イ 進路指導に関すること

- ・今年度も適性検査（「M2+（1学年）」「職業レディネステスト（2学年）」「職業理解検査（3学年）」を行い、結果のフィードバックも実施した。キャリアパスポートも、年度初めや学期末といった区切りや行事实施後に記入させ管理している。ほぼ目標値に達しており、概ね自己理解を深める指導ができていたものと思われる。
- ・本報告書作成時点の進路決定率は目標値を達成していないものの、就職活動を行っていたり、4月以降就職に向けて個に応じた必要な支援を受けることが決まっていたりするなど、進路決定に向けた動きを継続している。
- ・求人票管理・閲覧システムの利活用や、進路意識を高めるためのガイダンスの実施、新たな試みとして企業見学会（3学年）や上級学校見学会（2学年）を実施するなど、生徒一人一人の適性に応じた進路決定に向けた指導が充実していることが伺える。

ウ 生活指導に関すること

- ・生徒の自己管理については、目標を達成できなかった。Teams や Studyplus、連絡掲示板等の活用、ホームルーム担任の声がけ等をとおして、予定やその変更の周知をていねいに行っているところだが、例えば、ホームルームや教科指導においてより具体的、実践的な指導を行っていく必要があると考えられる。

エ 健康・安全に対する指導に関すること

- ・「体調管理（衛生管理、食事等）に関して意識するようになった」と実感する生徒の割合が目標値に達しなかった。新型コロナウイルス感染症が落ち着いたこともあり、一時のような衛生管理を行わなくなったことが、この結果につながったと考えられる。
- ・自転車通学者に対するヘルメット着用指導や保険加入の確認のほか、令和6年度は乗車用ヘルメット着用の重要性を学ぶ「セーフティ教室」を実施した。目標値には達しなかったものの、多くの生徒が交通安全に関して意識するようになっていることが伺える。
- ・学校生活アンケートやメンタルヘルスアンケート等を実施したり、特別支援コーディネーターとスクールカウンセラーが週1回ミーティングを行ったりしており、生徒が安心できる環境づくりや相談しやすい環境づくりができていると考えられる。

オ 部活動・特別活動（学校行事）に関すること

- ・部活動については、生徒、保護者共に約20%が否定的にとらえているが、バスケットボール部、バドミントン部、柔道部を中心に継続的に活動しており、生徒も熱心に参加している。活動時間や地域移行の課題もあることから、可能な範囲で充実した活動ができるようにすることが大切である。
- ・「ホームルーム活動や学校行事で活躍できた」と実感する生徒の割合が目標値に達しなかった。一方でアンケートから、秋華祭や生徒会活動、生徒会役員選挙、5月に実施した「SusHi Tec Tokyo 2024」におけるボランティア活動等をとおして、生徒は自己有用感を得ていることが伺える。このことから、生徒に活躍の機会を与えていくことが大切であると考えられ、今後のホームルーム活動や学校行事の充実が期待される。

カ 施設・設備に関すること

- ・令和6年度から都の事業により給食無償化されたことにより、受給生徒数が増加した。また、栄養士が給食受給者を対象に食育指導を行った。

キ 学校運営に関すること

- ・受検生を対象として、平日の学校見学、休日の学校見学会（全7回計画）、合同説明会（秋）、体験学習（冬）等を実施してきたが、令和7年度入学者選抜（一次募集）の出願数は10名だった。本校に限らず都立高校全体でもみられている変化であり、これについては評価が難しい。
- ・令和6年度は、前原三丁目のご協力により、多くの地域の方の声を聞くことができた。この貴重な声を教職員全員が受け止めて、教育活動をどのように展開していくかを考える際の参考にしていくことが大切である。
- ・今年度発生した重大な服務事故を受けて、Teamsの適正な運用などに係る研修等を実施し、全教職員の理解の徹底を図るとともに、生徒等の個人情報の取扱のルール等について確認するなど、個人情報の取扱に対する意識を高める取組を推進してきており、今後も継続的に取り組むことが望まれる。

- ・「OJT及び業務継承のための校内人事・業務分担」については、令和5年度に続き数値からも課題があると考えられ、また、業務量の偏りについて指摘があることから、改善に向けた調整が期待される。

ク その他

- ・Web 回答方式により集計作業の効率化が実現できているが、無記名回答としていることにより、特に生徒について重複回答等数値に影響が出ている。このため、固有番号を配布するなど、個人が特定できない形で、かつ、重複回答を避ける調査方法を検討することが大切であるとする。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・経年変化を見るために昨年度見直した学校評価アンケートの項目を残しつつ、一部今年度の経営計画を評価するための項目とするための調整を行ったことにより、学校経営計画の取組状況について分析的に検討することができた。
- ・特に第3回協議会においては、協議委員から学校評価アンケートの分析結果に基づいたさまざまな提言をいただき、充実した協議会となった。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・特に、資格取得に向けた講習会の実施状況や教員相互の授業参観による授業研究の取組状況について、学校経営計画に対して大きな乖離が見られることから、学校経営計画の教員の理解と実現に向けた姿勢に課題があると考えられる。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）学習指導に関すること

- ・「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」の指導力を向上するための教員研修を推進する。
- ・国家資格に準じた資格の取得率向上に結びつくような校内の指導体制の構築を推進する。

（2）進路指導に関すること

- ・生徒がよりよい進路選択ができるよう、これまで構築してきたさまざまな取組を継続する形で4年間を見通した指導体制の確立を目指す。

（3）生活指導に関すること

- ・生徒が安心、安全な学校生活を送ることができるよう、これまでの取組を継続する。

（4）健康・安全に対する指導に関すること

- ・多様な生徒するための学級担任、保健室、SC等の連携による相談体制を継続する。

（5）部活動・特別活動（学校行事）に関すること

- ・全教職員の理解のもと、学校行事を中心とした体験的活動を継続し充実を図る。

（6）施設・設備に関すること

- ・給食の充実を含め、これまでの維持管理体制を継続する。

（7）学校運営に関すること

- ・校内人事・業務分担により、OJT及び業務継承を推進する。
- ・信頼関係を深め、生徒一人一人がよりよい学校生活を送れるように、研修等をとおして「言葉

の力」を含めた教員の人権感覚の向上に取り組む。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) (評価した) 協議委員人数 8人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
2	6	0	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回